第４学年１組　　道徳科学習指導案

１　主　題　名　　　分かり合うために（Ｂ　相互理解）

　　教　材　名　　　つまらなかった　　　出典：光村図書「きみがいちばんひかるとき」

２　本時の学習

（１）ねらい

　　　何気ない言葉を巡ってすれ違う信二とさとしの姿を通して、互いに分かり合うために大切なことについて考えさせ、相手の思いを理解するとともに、相手からの理解を得られるように伝えようとする実践意欲や態度を育てる。

（２）準備

 　教師　・・・電子黒板　心情円　ワークシート　　　児童・・・タブレット

（３）学習過程　　　　　　　　　　　　　　　　アンダーラインは、現職テーマに迫る手だて

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 |  　　学　習　活　動 |  　 ○教師の支援・留意点　◎評価 |
| つかむ３分 | １　自分と友達との関係が上手くいかなかった経験を振り返る。【全】・一緒に行こうと言っていたのに、相手が自分を置いて先に行ってしまった。・誘ったのに一緒に遊びに行けなかった。・急に予定が入って遊べなくなったことを、相手に言いづらかった。２　本時のめあてを知る。【全】 おたがいが分かり合うために大切なことは、何でしょう | ○　上手くいかなかった経験があるかを聞く。○　これまでの経験を思い出しながら、資料の内容にも触れ、児童の関心を高める。 |
| 追究する３２分 | ３　資料を読み、待ち合わせ場所でのさとしと信二の気持ちを考え、それぞれの思いをまとめる。【全】　　＜さとし＞・信二が二人で遊ぶのは嫌なんだと思った。・もう一人来なくても、二人で遊びたかった。　＜信二＞　・三人で遊ぶはずだったから、残念だな。　・二人でもいいけれど、やっぱり三人がいいな。４　さとしがだまりこんだことについて理解できるかどうかを話し合う。　　　　　　【個→グ→全】・信二が自分と二人は嫌なんだと思っているから、さとしがだまるのも分かる。・最新式の遊具でなかったのを信二が怒っていて、自分のことしか考えていないから、さとしがだまるのも無理はない。・信二にりょうがいなくても遊ぼうと言えばよかったと思う。・さとしが自分の気持ちを信二に思い切って話せばよかったと思う。５　信二とさとしのこれからについて、二人がどう話すといいのか、ペアでどちらかの立場に立ちワークシートに書いて、役割演技をする。　　　　　　　　　　　　　　　【個→ペ→全】＜さとし＞・黙ったままでごめん。ぼくと二人だけだと嫌なのかと思ったんだよ。　・これからも仲良くしたいと思っているよ。＜信二＞・さとしの気持ちを聞けばよかったのに、ごめん。・自分にとっては、さとしも大切な友達なんだよ。 | ○　さとしと信二のそれぞれの思いを板書する。○　状況を把握することで、この後のさとしのだまりこむ心情につなげられるようにする。○　「りょうと遊べると」ではなく、「三人で遊べると」と信二が言ったことに着目し、二人の思いがすれ違ってしまっていることに気付けるようにする。○　心情円を使って、さとしの気持ちを理解できるか、個々の思考を見える化する。（理解できる…赤　理解できない…白）○　グループ活動を取り入れて、話しやすい雰囲気づくりに努め、信二とさとしに足りなかったことや解決策を自由に出し合うようにする。○　グループ活動は、合意形成を目指すのではなく、一人一人が考えをもって活動できるように助言する。○　ワークシートに書く時間を確保して、お互いの気持ちを理解し合い、受け入れることの大切さを考えることができるようにする。○　ペアを指名し、役割演技で感想や意見を伝え合うことによって、主題についての考えを深めることができるようにする。◎　互いにわだかまりを解決するためにそれぞれの立場でどうするとよいかを考えて、書いたり伝え合ったりすることができたか。　　（ワークシート・発言） |
| 　まとめる１０分 | ６　振り返りをする。　　　　　　【個→全】　　　　　　　　　　　　　　　　・相手の気持ちを考えて話すことが大切だと思った。　・相手がどう思っているかを聞けば、気持ちが分かり合えると思った。 | ○　本時で学んだことをタブレットに入力するように指示する。◎　互いに理解し合うために大切なことについて、自分なりの考えをもつことができたか。　　　　　　　　　　（発言・タブレット） |

（４）評　　価

　　・　相手の言葉の背景にある思いから相手への理解を深め、相互理解の大切さに気付くことができたか。

（５）板書計画

つまらなかった

　おたがいが分かり合うために大切なことは、何でしょう。

（おたがいが分かり合うために大切なこと）

・おたがいのことを考えること。

・相手の気持ちを考えて話すこと。

・相手がどう思っているか聞くこと。

信二の挿絵

さとしの挿絵

・信二が自分と二人は嫌なんだと思っているから、さとしがだまるのも分かる。

・最新式の遊具でなかったのを信二が怒っていて、自分のことしか考えていないから、さとしがだまるのも無理はない。

・信二にりょうがいなくても遊ぼうといえばよかったと思う。

・さとしが自分の気持ちを信二に思い切って話せばよかったと思う。

（信二）

・もう一人の友達が来

ない。

・遊具がしょぼい。

・ぼくと二人はつまらないんだと思った。

・二人でも遊びたかっ

た。

・さとしの気持ちを考えて話す。

・自分の思っ

　ているこ

とを話す。